

幼 兒 の 教 育

昭 和 六 年 七 月

涼

幼兒達の顔、何んといふ涼しさだらう。此の日中を馳け歩き飛び廻り、遊ぶつづけてゐながら、何んといふ心の涼しさだらう。

焦らない心は涼しい。もだへない心は涼しい。鬱積せる愚痴、追ひまわす慾念、密閉せる我執、塗りあげる虚飾。思つただけでも蒸し暑いが、それが幼兒にない。

忘れた我、事に即し今に生きる真劍。熱風裡に居て熱を知らぬ。汗にぬれて汗を知らぬ幼兒の顔、今鳴いてゐる一匹の蟬をねらつて、萬象無に歸せる幼兒の顔。悟道の極ではないが、何といふ心の涼しさだ。

それにしても、なんと暑くるしい我等の顔。